

おお たに いけ まつ お いけ

# 大谷池・松尾池

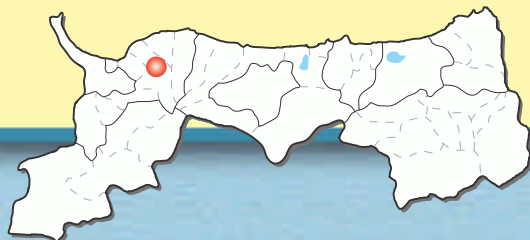
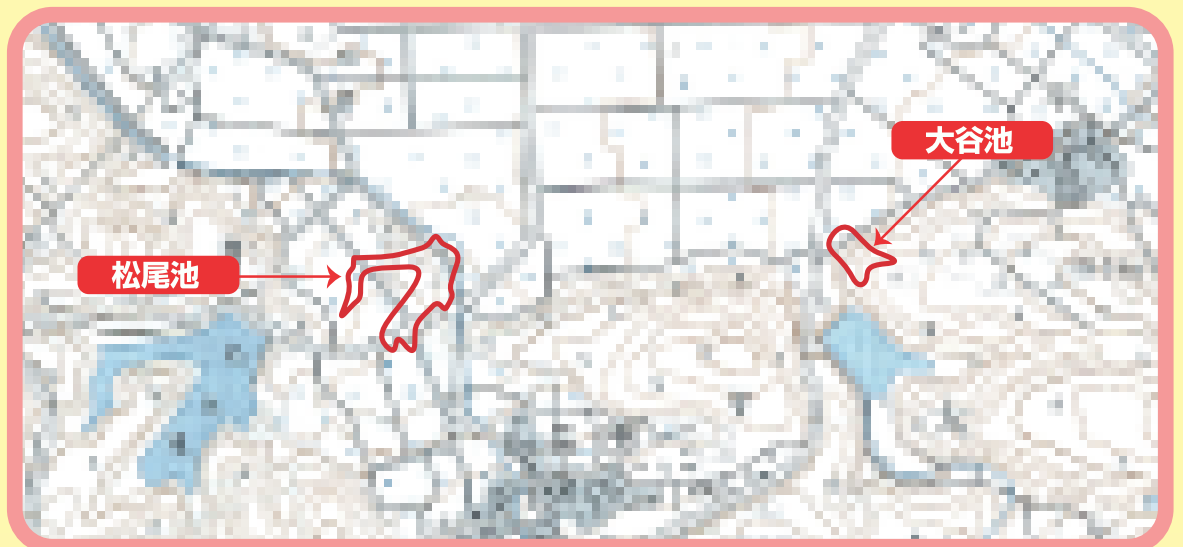
さいはくくんだいせん  
(鳥取県西伯郡大山町)



↑ 大谷池



↑ 松尾池



## おおたに ながた いりえきへえ 大谷池をつくった長田の入江喜兵衛

今からおよそ300年前、だいせんちやう いなみつ 大山町の稲光  
じやうまん や上方のあたりの水田は、水が少なく困っ  
ていました。長田に住んでいた入江喜兵衛  
はこのみず ぶ そく 水不足を見かねて、ため池をつくる  
ことを思いつきました。

ため池をつくるには、すい ぼつ 水没する土地のか  
わりの土地を、はん ていしゆつ ひつ よう 藩に提出する必要がありま  
した。そのために、喜兵衛は自分が持って  
いた山林をていきやう 提供する代わりに藩のゆる え 許しを得  
て、1711（しょうとく がん 正徳元）年11月に工事に  
取りかかりました。この時につくったため  
池が、長田集落から東方向、げん ざい こう いき 現在の広域農



そこひ おおたに  
↑ 底樋の一部が見える大谷池

道そばにある大谷池です。堤防の高さは9メートル、長さが95メートルあり、198ヘクタールの水田に水を供給しています。

## 犠牲となった孫兵衛

大谷池の工事は、順調に進んでいきました。ところが、完成も間近かとなったある日、事件が起きました。1712(正徳2)年6月26日、この日も汗水流して工事に力を注ぎ、いつものように昼飯を食べた後人夫たちは土手の上で一休みしていました。雑談をしながらいこいの時間を楽しむ人や、こかげで昼寝をする人など各自が思い思いに午前の仕事の疲れをいやしていました。

この時、稲光村人夫頭の山根孫兵衛と、工事にたずさわっていた普請奉行との間で、水路のことについて口論が始まりました。孫兵衛の言い分が明らかに正しかったのですが、あとに引けなくなった奉行は、ついに刀を抜いて孫兵衛を斬り付けました。孫兵衛は多少武術の心得があったので、そばにいた人夫に「てんびん棒を取ってくれ」とたのみました。しかし、人夫たちも突然の出来事に驚いてばかりで、誰一人として

(注) 普請(ふしん)

現在では、家を建築することや土木工事のことをいいます。もとの意味は、寺の建築や修理をすることをいいました。昔、禅宗(ぜんしゅう)では、寺を建築したり修理するときには、多くの人々から労役の提供をうけて、無料で行うのが常でした。そのことを「普請」といいました。いつの間にか、道路や橋の工事、一般の住宅を建築したり修理する意味になりました。

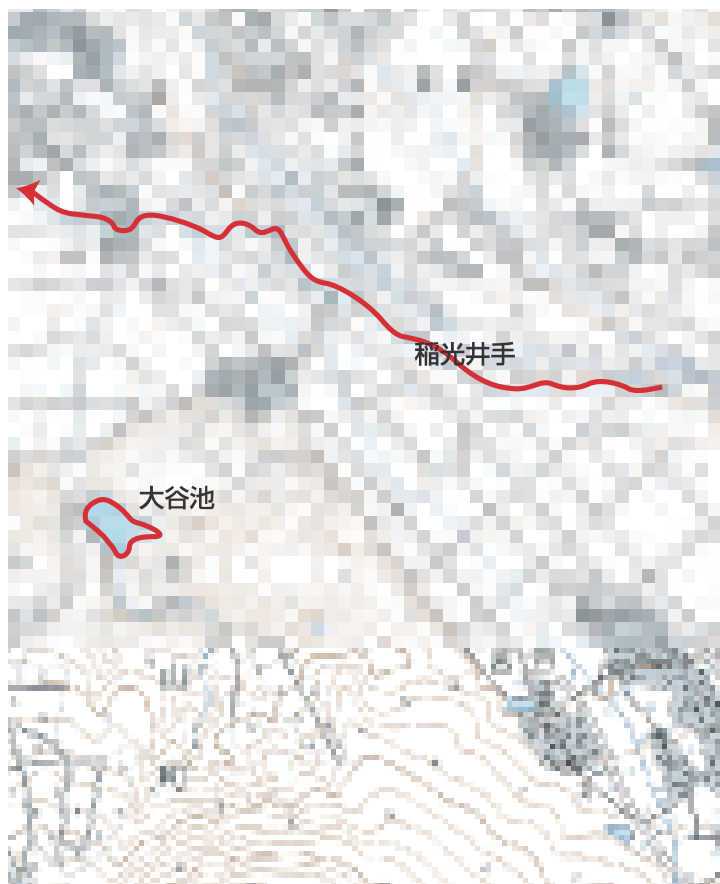
助けに入る人はなく、孫兵衛は奉行に斬り殺されてしまいました。

この様子を見ていた村人たちは、事の成り行きは分かりませんでした。奉行が孫兵衛を殺したため大きな騒ぎとなりました。奉行はその場にいたたまれず、命からがら鳥取に逃げ帰ったと伝えられています。

このような事件があり、奉行が新しく代わることになりました。奉行の計らいで、孫兵衛が考えたと思われる阿弥陀川から水を引く水路をつくり、下流の水田に水を流すことになり、やっと事件は落ち着きまし



いなみついで ひら  
↑ 稲光井手 (大山町平付近)



いなみつ  
↑ 稲光井手の流れ

た。その後人々はこの水路を「稲光井手」と呼び、稲光の孫兵衛が犠牲になってできた水路だと伝えていきました。



↑ まんずい 満水状態の松尾池

## まつ お てい ほう ぞう ちく 松尾池の堤防増築

松尾池は、孝霊山の北西のふもとにある、現在の妻木晩田遺跡の東に位置する、汗入西部の地区をうるおすため池です。ため池を築いたのはおよそ300年前といわれていますが、たしかな記録は残っていないようです。

1792（寛政4）年に大干ばつがあり、ため池の下流の村々の稲が枯れてしまいました。喜兵衛は松尾池の堤防を高くして、ためる水の量を増やすことで、干ばつから

（注）汗入（あせり）

現在の中山町の一部、名和町、大山町、淀江町の一部を汗入と呼んでいました。

村人を救おうと、藩の許可を得て工事を行いました。



亡くなった3人の墓

工事中に、人夫であった谷上小三郎、山根多兵衛、清水六兵衛の3人が、くずれた土砂の下敷きになって死亡するという事故が起きました。亡くなった3人は人柱として、工事にたずさわった人たちによって、池が見わたせるほとりにまつられました。その後工事は完成し、犠牲となった3人の事故を後世に残すため、1816（文化13）年に石碑が建てられました。

ところで、当時の村人は、苗字を持つことが許されていませんでした。喜兵衛をはじめとする奉行に殺された孫兵衛や、人柱として犠牲となった3人に苗字がついているのは、多大な功績を残したり、犠牲になったりしたことなどから、藩の許しを得て苗字が付けられたものだと考えられています。



おおたに まつお  
↑ 上空から見た大谷池と松尾池

大谷池・松尾池



しゅうかく  
↑ 収穫をむかえた水田